

2006年3月期 決算概要

1. 連結

	2006年3月期	2005年3月期	前期比
売上高	8,243億46百万円	7,818億74百万円	105.4%
営業利益	390億53百万円	366億82百万円	106.5%
経常利益	347億46百万円	310億99百万円	111.7%
当期純利益	△56億68百万円	209億92百万円	

◎連結対象子会社

佐川物流サービス㈱（2006年6月20日より佐川グローバルロジスティクス㈱に商号変更）、
佐川グローバルエクスプレス㈱、佐川ギャラクシーモーターズ㈱、佐川サポートサービス㈱
（2006年6月20日より佐川アドバンス㈱に商号変更）、ギャラクシーエアラインズ㈱ 他、
計32社

※2006年3月期は、所有不動産の証券化ならびに減損会計早期適用による特別損失を363億円計上

2. 個別

	2006年3月期	2005年3月期	前期比
売上高	7,574億40百万円	7,279億74百万円	104.0%
営業利益	334億22百万円	331億62百万円	100.8%
経常利益	294億76百万円	279億89百万円	105.3%
当期純利益	△87億24百万円	178億41百万円	

3. 宅配便「佐川急便」取扱個数

	2006年3月期	2005年3月期	前期比
総取扱個数	9億9,309万4千個	9億4,322万8千個	105.2%
e-コレクトサービス	6,991万7千個	5,323万8千個	131.3%
飛脚クール便	2,834万4千個	2,570万8千個	110.2%
時間帯サービス	3,295万5千個	2,526万2千個	130.4%
メール便	5億322万冊	2億7,516万3千冊	182.8%

※メール便は「飛脚メール便」「佐川ゆうメール」の合計

4. (個別) 貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	146,273	流動負債	131,018
固定資産	373,445	固定負債	268,944
有形固定資産	298,560	負債合計	399,963
無形固定資産	10,150	資本の部	
投資その他の資産	64,734	資本金	11,275
		資本剰余金	275
		利益剰余金	106,604
		株式等評価差額金	1,601
		資本合計	119,756
資産合計	519,719	負債及び資本合計	519,719

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 201,813 百万円

5. (個別) 損益計算書 (単位：百万円)

科目	金額
営業収益	757,440
営業費用	724,017
営業利益	33,422
営業外収益	2,454
営業外費用	6,400
経常利益	29,476
特別損益	△37,675
税引前当期純損失	8,198
法人税その他の税額	465
法人税等調整額	60
当期純損失	8,724
自己株式償却額	△95
前期繰越利益	9,966
当期末処分利益	1,146

(2005年3月21日～2006年3月20日)

(注) 1株当たりの当期純損失 164円06銭

6. 概況

2005年度は中期経営プラン「真価創生3ヵ年計画」の経営ビジョン“すべての人々に『選ばれる』佐川急便グループでありたい”のもと、お客様に「満足」、「安心」、「信頼」をいただける品質、サービスの向上に取り組んでまいりました。当社の主力商品に成長した「e-コレクトサービス」事業は、新設した佐川フィナンシャル㈱に営業譲渡し、更なる拡販に努めた結果、取扱い決済金額は前期比20.8%増加の8,858億円と引き続き好調を持続、メール便の取扱い冊数も前期比82.8%増加の5億322万冊となるなど、お客様のニーズに添う商品の充実に努めてまいりました。輸配送面におきましては、2005年11月、関西地区に大型中継センター「八幡センター」を、さらに2006年2月には関東地区に「Tokyoビッグベイ」を稼働させ、物流の効率化並びに品質の向上に取り組んでまいりました。また、貨物航空キャリア事業を目的にギャラクシーエアラインズ㈱を2005年5月に設立し、新たな事業展開に向け着実に準備を進めるとともに、インドネシア、台湾に現地法人を設立するなど海外事業展開にも積極的に取り組んでまいりました。

一方、当社国際営業部を佐川航空㈱に統合し社名を佐川グローバルエクスプレス㈱に改称、佐川自動車工業㈱と佐川車体㈱を合併し佐川ギャラクシーモーターズ㈱に社名変更並びに幹線路線5社を合併・統合し佐川ギャラクシーハイウェイズ㈱とするなどグループ内の事業再編を行い、総合力を最大限に発揮できる体制の構築に努めてまいりました。

その結果、2005年度の宅配便取扱個数は9億9309万4千個と前期比5.2%増加し、当期の売上高は7,574億40百万円と前期比4.0%の増収となりました。

一方、利益面におきましては、燃料費の高騰に加え外形標準課税の計上並びに賞与引当金の増加などにより営業利益は334億22百万円となり、前期に比べ0.8%の微増にとどまりました。これに営業外損益を含めた経常利益は294億76百万円となり、前期比5.3%の増益となりました。しかしながら、資産効率の向上を目的に保有資産の一部を証券化したことに伴う固定資産売却損、並びにグループ各社で減損会計を早期適用したことによる子会社株式評価損などを計上したため、87億24百万円の当期純損失となりました。

運輸業界を取り巻く環境は大変革の時代へ突入し、競争は益々激化しております。当社はこのような厳しい経営環境の中、中期経営プラン「真価創生3ヵ年計画」の総仕上げとなる2006年度は、更に強固な経営基盤を確立し当社グループの真の企業価値を創生するため「経営戦略策定・管理機能」と「執行機能」を明確に分離した純粹持株会社、SGホールディングス㈱を2006年3月に設立いたしました。経営のスピードを高め環境の変化へ革新的に対応し、更には事業会社の評価、経営資源の有効配分など、コーポレートガバナンスを一層強化して、宅配便事業をはじめ既存事業の拡充並びに新規事業領域への進出も視野に入れ着実に対応してまいります。